

V 試験研究発表題名

令和5年度 試験研究発表題名一覧

番号. 著者名. タイトル. 誌名, 掲載号: ページ

1. 鷹尾元、岡田康彦、村上亘、高橋與明、高橋正義、齋藤英樹、壁谷大介、宮本和樹、櫃間岳、鈴木孝典（茨城県林業技術センター）、前川直人（茨城県林業技術センター）、萩原晟也（福岡県農林業総合試験場）、鶴崎幸（福岡県農林業総合試験場）、桙崎康二（福岡県農林業総合試験場）。森林の管理優先度を広域評価する技術の提案と実装に向けて。日本森林学会大会学術講演集、135:104（S9-8）
2. TEI Shunsuke（鄭峻介）、Darshana Athukorala（元森林総研非常勤職員）、Dmitry Schepaschenko（スカチェフ森林研究所）、Liudmila Mukhortova（スカチェフ森林研究所）、Sergey Farber（スカチェフ森林研究所）、Leonid Krivobokov（スカチェフ森林研究所）、Nastassia Sokolova（スカチェフ森林研究所）、Ekaterina Tyutkova（スカチェフ森林研究所）、Alexsey Martynov（スカチェフ森林研究所）、NAGAI Shin（永井信・海洋研究開発機構）、TAKAO Gen（鷹尾元）。Responses of tree radial growth to climate changes in central Siberia deduced from dendro-ecological approach（年輪生態学的手法による中央シベリア樹木の気候変動応答推定）。日本地球惑星科学連合大会（2023）、ACG46-P12
3. 浦野忠久。森林総合研究所関西支所令和5年度公開講演会「広葉樹活用のすすめ－広葉樹林をお宝として生かすために－」開催報告。森林総合研究所関西支所研究情報、149:1
4. 浦野忠久、砂村栄力、福森郁哉（大和化学工業（株））。クビアカツヤカミキリ穿入材に対するサビマダラオオホソカタムシ卵放飼試験。日本昆虫学会第84回大会・第68回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨集、90（D-22）
5. 細田育広。竜ノ口山森林理水試験地観測報告（2011年1月～2015年12月）。森林総合研究所研究報告、22（2）:89-107
6. 細田育広。竜ノ口山南谷における地下水、湧水、溪流水の環境トレーサーによる比較。日本森林学会大会学術講演集、135:269（PJ-41）
7. 初山寛樹、熊谷朝臣（東京大学）、清水貴範、阿部俊夫、壁谷直記、久保田多余子、黒川潮、澤野真治、玉井幸治、細田育広。森林理水試験地に対するTOPMODEL型タンクモデルの適用。日本森林学会大会学術講演集、135:270（PJ-43）
8. 細田育広。基盤研究1ウk2：森林水文モニタリングー竜ノ口山森林理水試験地における2022年の概要ー。森林総合研究所関西支所年報（令和5年版）、64:48-49
9. 山下直子。照葉樹の木材利用 森とつながる人々の暮らし。milsil、16（4）:15-17
10. 大塚祐一郎、野尻昌信、鈴木悠造、荒木拓馬、楠本倫久、橋田光、森川卓哉、松井直之、松原恵理、山下直子、中尾勝洋、小笠真由美、北川涼。「木の酒」の安全性試験で問題なし、実生産規模の製造プロセスも確立。森林総合研究所研究成果選集2023（令和5年版）、34-35
11. 経隆悠、村上亘、中尾勝洋。土砂災害危険雨量の発生頻度の将来変化。砂防学会研究発表会概要集（令和5年度）、521-522
12. 経隆悠、村上亘、中尾勝洋。気候変動が斜面崩壊の発生危険性に及ぼす影響。日本地すべり学会研究発表会講演集、62:P-19
13. 鳥山淳平、橋本昌司、中尾勝洋、斎藤琢（岐阜大学）、西園朋広、内山憲太郎、荒木眞岳（林野庁）、村上亘、平田泰雅。スギ人工林域の炭素吸収量の将来予測ースギの面積縮小と高齢化の影響ー。日本森林学会大会学術講演集、135:150（I5）

14. 壁谷大介、中尾勝洋、重永英年. ALS データと機械学習を利用した樹高推定にもとづく新たな地位マップ. 日本森林学会大会学術講演集、135:215 (PE-38)
15. 阿部真、倉本恵生、中尾勝洋、稲垣善之、瀧誠志郎. 東京都内における目視観測に基づくスギ雄花量と林分環境. 日本森林学会大会学術講演集、135:258 (PI-29)
16. 内山憲太郎、中尾勝洋、加藤珠理、伊原徳子、上野真義、松本麻子、戸丸信弘 (名古屋大学)、津村義彦 (筑波大学). 日本の主要高木種の遺伝的適応：空間分布と温暖化影響予測. 日本森林学会大会学術講演集、135:221 (PF-5)
17. 中尾勝洋. 流域界ごとの環境不均一性とスギ樹高成長. 日本森林学会大会学術講演集、135:216 (PE-42)
18. NAKAO Katsuhiko (中尾勝洋)、TSUNETAKA Haruka (経隆悠)、MURAKAMI Wataru (村上亘). Adaptation measures timeline for conservation and sustainable use of forest resources under uncertainty future. (不確実性が高い将来条件下における森林資源の保全と持続的な活用に向けた適応策タイムライン). ESA Annual Meeting abstract collection (2023)、LB 7-56
19. 中尾勝洋. 第6章 将来を見据えた人工林の管理に向けてービッグデータと機械学習を利用した樹高成長の評価ー. 林業改良普及双書 低コスト再造林 歩みと最新技術 (全国林業改良普及協会、212 頁)、206:97-110
20. 川越清樹 (福島大学)、中尾勝洋、大橋春香. 気候変動による複合的な要因を考慮した土砂災害リスク評価と適応計画. 地球環境、28 (1):85-94
21. 小笠真由美、宇敷京介 (岐阜県森林研究所)、高橋玄 (千葉県農林総合研究センター)、山下直子、藤井栄 (徳島県立農林水産総合技術支援センター). 乾燥ストレスに対するスギおよびヒノキコンテナ苗の生理生態的反応. 日本森林学会大会学術講演集、135:237 (PG-26)
22. 高橋玄 (千葉県農林総合研究センター)、小笠真由美、三木直子 (岡山大学). イヌマキ苗木における乾燥に対する生理機能の脆弱性が樹冠衰退へ与える影響. 日本森林学会大会学術講演集、135:145 (G1)
23. 高橋玄 (千葉県農林総合研究センター)、中山大誠 (千葉県農林総合研究センター)、大川美沙 (千葉県農林総合研究センター)、小笠真由美. 観葉植物フィカス・ウンベラータにおける溢液と細菌病の発生の関係. 園芸学研究、23 (別 1):197
24. 小笠真由美、山下直子、北川涼、藤井栄 (徳島県農林水産総合技術支援センター)、飛田博順. 育苗中の物理的刺激がスギコンテナ苗の形状および植栽後の成長に及ぼす影響. 森林応用研究、32 (2):15-23
25. 宮本和樹、米田令仁、稲垣善之、福本桂子、北川涼、櫃間岳、壁谷大介. 異なる間伐を行ったヒノキ人工林における幹成長と葉量回復の比較. 日本森林学会大会学術講演集、135:143 (E13)
26. Shu-Kuan Wong (国立極地研究所)、Yingshun Cui (Gyeongsang National University)、Seong-Jun Chun (National Institute of Ecology・LMO team)、KANEKO Ryo (金子亮・国立極地研究所)、MASUMOTO Shota (増本翔太・横浜国立大学)、KITAGAWA Ryo (北川涼)、MORI S. Akira (森章・横浜国立大学)、An Suk Lim (Gyeongsang National University)、UCHIDA Masaki (内田雅己・国立極地研究所). Vegetation as a key driver of the distribution of microbial generalists that in turn shapes the overall microbial community structure in the low Arctic tundra (低緯度北極圏のツンドラにおける微生物群集の構造は植生によって決定される). Environmental Microbiome、18:41
27. KOBAYASHI Makoto (小林真・北海道大学)、KITAGAWA Ryo (北川涼) (筆頭者同等)、Gesche Blume-Werry (Umeå University). How do leaf functional traits and ontogeny influence the maximum rooting depth of trees? (樹木の葉の機能的形質と根の深の関係?). European Journal of Forest Research、142 (5):1197-1206

28. SAKATA Yuzu (坂田ゆず・秋田県立大学)、KATO Mei (加藤愛唯・秋田県立大学)、KOBAYASHI Keito (小林慧人). Host plant utilization of two *Dicraeus* species (Diptera: Chloropidae) feeding on bamboo flowers (タケの花を食害する2種の *Dicraeus* (Diptera: Chloropidae) の宿主植物利用について). *Journal of Natural History*, 57:13-16, 771-783, DOI: 10.1080/00222933.2023.2210798
29. 小林慧人. タケ開花の広域把握を目指して：新幹線鉄道網活用の探索的研究. 竹林景観ネットワーク研究集会講演要旨集, 31:3
30. 小林剛 (香川大)、武颯一 (香川大)、藤田涼太 (香川大)、篠原拓一郎 (香川大)、水野理央 (香川大)、鈴木重雄 (駒澤大)、福島慶太郎 (福島大)、小林慧人、和田譲二 (水と緑の連絡会議)、久本洋子 (東京大). 世界遺産・石見銀山 (島根県大田市) におけるハチク開花林の様相. 竹林景観ネットワーク研究集会講演要旨集, 31:3
31. 小林慧人. 竹業界の方々が研究者と連携を望む諸課題について～2021年に京都市で開催された講習会より～. 全竹連情報, 51:18-20
32. Shitephen Wang (王仁・京都大学)、Daniel Epron (京都大学)、KOBAYASHI Keito (小林慧人)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、DANNOURA Masako (檀浦正子・京都大学). Sources of carbon supporting the fast growth of developing immature moso bamboo (*Phyllostachys edulis*) culms: inference from carbon isotopes and anatomy (伸長中の未熟なモウソウチク稈の急成長を支える炭素源：炭素同位体と解剖学からの推論). *AoB PLANTS*, plad046, <https://doi.org/10.1093/aobpla/plad046>
33. 坂田ゆず (秋田県立大学)、廣田峻 (大阪公立大学)、松尾歩 (東北大学)、小林慧人、中濱直之 (兵庫県立大学)、陶山佳久 (東北大学). Contrasting patterns of genetic structure and population demography in two *Dicraeus* species feeding on bamboo flowers in Japan (日本のタケの花を食べる *Dicraeus* 属2種にみられた遺伝的構造と個体群動態の対照的なパターン). *Biological Journal of the Linnean Society*, blad171, <https://doi.org/10.1093/biolinnean/blad171>
34. 小林慧人、小笠真由美、山下直子. 実生由来のモウソウチクにおける一斉開花後衰退過程. 日本森林学会大会学術講演集, 135:250 (PH-43)
35. 小林慧人、中尾勝洋、北川涼. 全国の新幹線網を活用したタケ類開花状況把握の試み. 日本生態学会大会講演要旨, 71:P2-129
36. 鈴木重雄 (駒澤大学)、小林剛 (香川大学)、小林慧人、久本洋子 (東京大学)、福島慶太郎 (福島大学)、和田譲二 (緑と水の連絡会議). 石見銀山石銀集落跡におけるハチク開花の経過. 日本生態学会大会講演要旨, 71:D01-02
37. 小林慧人、富松裕 (山形大学)、蒔田明史 (秋田県立大学). タケササ一斉開花研究の現在地. 日本生態学会大会講演要旨, 71:W21
38. 小林剛 (香川大学)、久本洋子 (東京大学)、小林慧人. ハチク開花後の枯死過程と開花後の植生変化から考える無性繁殖の適応的意義. 日本生態学会大会講演要旨, 71:W21-3
39. 小林慧人. Re: Bamboo Note no.9「最近の私のタケ記」. 竹, 153:27
40. 小林慧人. 自然体験と私の歩み：およそ四半世紀を振り返って. 子どもと自然学会誌 25, 18 (1):146-148
41. 西山典秀 (国立遺伝学研究所)、小林慧人、笹原千佳 (Bamboo Salon)、大谷悠巴 (Bamboo Salon). 竹サロンのこれまでとこれから. 竹林景観ネットワーク研究集会講演要旨集, 32:6

42. 小林慧人、小笠真由美、山下直子. 異なる光条件下におけるモウソウチク実生の成長と光合成特性. 竹林景観ネットワーク研究集会講演要旨集、32:3
43. 久本洋子 (東京大学)、網本良啓 (北海道立総合研究機構)、小林慧人、福島慶太郎 (福島大学)、鈴木重雄 (駒澤大学)、小林剛 (香川大学). 120年ぶりの開花期にあるハチクの遺伝構造解析. 竹林景観ネットワーク研究集会講演要旨集、32:3
44. Shitephen Wang (王仁・京都大学)、Daniel Epron (京都大学)、KOBAYASHI Keito (小林慧人)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、DANNOURA Masako (檀浦正子・京都大学). Sources of carbon supporting the fast growth of developing *Phyllostachys edulis* culms (伸長中の未熟なモウソウチク稈の急成長を支える炭素源). 日本森林学会大会学術講演集、135:259 (PI-32)
45. 金子真司 (元森林総研職員)、古澤仁美、岡本透、玉井幸治、平野恭弘 (名古屋大学). 京都府南部の山城試験地 (YMS) 流域における 2000–2004 年の水質モニタリングー森林降水渓流水質データベースとの比較から明らかになった水質の特徴ー. 森林総合研究所研究報告、22 (2):51-72
46. 岡本透. 江戸時代以降の景観変化を画像資料から紐解くー京都府木津川市山城試験地周辺を対象にー. 水利科学、391:1-26
47. KOBAYASHI Masahiro (小林政広)、TSURITA Tatsuya (釣田竜也)、SHINOMIYA Yoshiki (篠宮佳樹)、ITOY Yuko (伊藤優子)、IMAMURA Naohiro (今村直広)、AIZAWA Shuhei (相澤州平)、OKAMOTO Toru (岡本透)、YOSHINAGA Shuichiro (吉永秀一郎・元森林総研職員). Twenty-year trends in precipitation and stream water chemistry in a forested watershed in the Kanto region, Japan (関東地方の森林流域における雨水と渓流水の水質の 20 年間の変化). Acid Rain 2020 Proceedings: 10th International conference on Acid Deposition、10:239 (P-39)
48. HORISAWA Sakae (堀沢栄・高知工科大学)、ITOY Yuko (伊藤優子)、OKAMOTO Toru (岡本透)、TAKASE Keiji (高瀬恵次・石川県大学)、KOBAYASHI Masahiro (小林政広). Community structure of airborne micro-organisms flowing into forests by rainfall (降雨によって森林に流入するエアロゾルの微生物群集). 日本地球惑星科学連合大会 (2023)、AHW18-P16
49. 柳由貴子 (山口大)、金子悠 (山口大)、安永昂生 (山口大)、中路侑花 (山口大)、藤間充 (山口大)、岡本透、小椋純一 (京都精華大)、太田陽子 (秋吉台科学博物館)、平館俊太郎 (九州大). 秋吉台半自然草原の土壌の特徴と分類ー剣山を事例にしてー. ペドロジスト、67 (1):25-34
50. 八巻一成、太田陽子 (大阪市立自然史博物館)、岡本透、高橋佳孝 (全国草原再生ネットワーク)、柴崎茂光 (東京大学). 阿蘇における森林と草原の関係の歴史的変遷. 林業経済学会秋季大会発表要旨集 (2023)、B11
51. HAYASHI Ryota (林亮太・名古屋大学)、MAIE Nagamitsu (眞家永光・北里大学)、WAGAI Rota (和穎朗太・農業環境技術研究所)、HIRANO Yasuhiro (平野恭弘・名古屋大学)、MATSUDA Yosuke (松田陽介・三重大学)、OKAMOTO Toru (岡本透)、WADA Ryusei (和田竜征・名古屋大学)、TANIKAWA Toko (谷川東子・名古屋大学). Soil acidity accelerates soil organic matter decomposition in *Cryptomeria japonica* stands and *Chamaecyparis obtusa* stands (スギ林、ヒノキ林下における土壌酸性度は有機物分解を加速化する). Plant and Soil、494:627-649
52. 森大喜、阪田匡司、橋本昌司、橋本徹、森下智陽、石塚成宏、山下尚之、清水貴範、小南裕志、深山貴文、岡本透、高梨聡、稲垣善之. 日本の森林土壌におけるメタン・CO₂ フラックスの時空間変動. 日本森林学会大会学術講演集、135:151 (I6)
53. 岡本透. 鈴鹿山脈中部～南部における 2017 年と 2023 年のスズタケー斉開花. 日本森林学会大会学術講演集、135:249 (PH-42)

54. 齋藤智之、岡本透、星野大介. 全国規模で分布するスズタケの一斉開花の地理的変遷と開花特性. 日本生態学会大会講演要旨、71:W21-2
55. ITO Eriko (伊藤江利子)、Bora Tith (カンボジア森林局). Litter loss in Cambodian evergreen forests is mainly caused by soil macrofauna feeding (カンボジアの常緑樹林における林床リターの消失は、主に土壤大型動物による摂食によって引き起こされる). *Cambodian Journal of Natural history*, 2023 (1):1-7
56. ITO Eriko (伊藤江利子)、FURUYA Naoyuki (古家直行)、OHNUKI Yasuhiro (大貫靖浩)、Bora TITH (カンボジア森林局)、Samkol KETH (カンボジア森林局). Selective cutting of large-diameter trees in a lowland evergreen forest in central Cambodia (カンボジア中央部の低地常緑樹林における大径木の違法択伐). *Cambodian Journal of Natural history*, 2023 (1):21-33
57. ITO Eriko (伊藤江利子)、FURUYA Naoyuki (古家直行)、OHNUKI Yasuhiro (大貫靖浩)、SHIBATA Mitsue (柴田銃江)、KANZAKI Mamoru (神崎護・京都大学)、MONDA Yukako (門田有佳子・京都大学)、SAKAI Yoshimi (酒井佳美)、TORIYAMA Jumpei (鳥山淳平)、YAGI Takanobu (八木貴信)、Bora TITH (カンボジア森林局)、Samkol KETH (カンボジア森林局)、Borin TO (カンボジア森林局)、Nang KETH (カンボジア森林局)、Chandararity LY (カンボジア森林局)、Phallaphearaoth OP (元カンボジア森林局)、Sophal CHANN (カンボジア森林局)、KIYONO Yoshiyuki (清野嘉之・元森林総研職員). Spatially heterogeneous natural regeneration of tall evergreen dipterocarps, a target of selective logging (択伐の対象であるフタバガキ科常緑高木の空間的に不均質な稚樹更新). *Cambodian Journal of Natural history*, 2023 (1):62-71
58. SAKASHITA Wataru (坂下渉)、MIURA Satoru (三浦覚)、NAGAKURA Junko (長倉淳子)、KANASASHI Tsutomu (金指努・福島大学) / KOBAYASHI Riona (小林里緒奈・住友林業)、MASUMORI Masaya (益守眞也・東京大学)、TANGE Takeshi (丹下健・東京大学)、TANOI Keitaro (田野井慶太郎・東京大学)、KOBAYASHI Natsuko I. (小林奈通子・東京大学)、MIURA Satoru (三浦覚) / MASUMORI Masaya (益守眞也・東京大学)、KOBAYASHI Natsuko I. (小林奈通子・東京大学)、TANOI Keitaro (田野井慶太郎・東京大学)、NIHEI Naoto (二瓶直登・福島大学)、MIURA Satoru (三浦覚)、KANASASHI Tsutomu (金指努・福島大学) / MIURA Satoru (三浦覚) / ITO Eriko (伊藤江利子)、MIURA Satoru (三浦覚)、AOYAMA Michio (青山道夫・筑波大学)、SHICHI Koji (志知幸治). Toward the Estimation of Radiocesium Activity Concentration in Trunks of Coppiced *Quercus serrata*: Leaf Availability Instead of Felling (コナラの幹における放射性セシウム濃度推定に向けて: 伐倒調査に代わる葉の利用可能性) / Effect of Exchangeable and Nonexchangeable Potassium in Soil on Cesium Uptake by *Quercus serrata* Seedlings. (土壌中の交換態および非交換態カリウムがコナラ苗木のセシウム吸収に及ぼす影響) / Challenge to Resume Production of Mushroom Bed Logs by Potassium Fertilizer Application. (カリ肥料施用によるきのこ原木生産再開への挑戦) / Studies on the Revitalization of Radioactive-Contaminated Mushroom Log Forests: Focus on Shoots. (放射能汚染されたキノコ原木林の再生に関する研究: 当年枝に着目して) / Global Fallout: Radioactive Materials from Atmospheric Nuclear Tests That Fell Half a Century Ago and Where to Find Them (グローバルフォールアウト: 半世紀前に降下した大気圏核実験由来の放射性降下物とその行方). *Agricultural Implications of Fukushima Nuclear Accident (IV): After 10 Years* (Springer, Singapore, 276 頁)、149-159 / 171-184 / 197-202 / 203-220 / 233-256
59. 大貫靖浩、鳥山淳平、伊藤江利子、Keth Samkol (カンボジア森林野生生物開発研究所)、Tith Bora (カンボジア森林野生生物開発研究所). カンボジアの森林植生分布に影響を与える土壌特性. 季刊地理学、75 (3):118-119
60. 長倉淳子、古澤仁美、小松雅史、平井敬三、伊藤江利子、橋本徹. 長期のカリウム施肥を受けた土壌と樹木の養分バランスー異なる施肥方法と樹種による検討ー. 関東森林学会大会講演要旨集、13:15 (立地1)

61. 伊藤江利子. 北海道における低コスト更新手法としての地がき作業と環境への影響評価について. 森林・林業交流研究発表会発表要旨(近畿中国森林管理局)(令和5年度)、特別発表01
62. 伊藤江利子. 北海道における低コスト更新手法としての地がき作業と環境への影響評価について. 森林・林業交流研究発表集録(近畿中国森林管理局)(令和5年度)、123-127
63. 伊藤江利子、菊地賢、古家直行(農水技会)、TITH Bora(カンボジア森林局). 落葉フタバガキ林における無毛型 *Terminalia alata* の複合適応形質. 日本生態学会大会講演要旨、71:P2-121
64. 伊藤江利子. 熱帯林の違法伐採跡地でリターバッグをシロアリに食べられた話. 森林総合研究所関西支所研究情報、150:2-3
65. 清水貴範、飯田真一、壁谷直記、清水晃、玉井幸治、伊藤江利子、大貫靖浩、田中憲蔵(国際農林水産業研究センター). 熱帯の天然生乾燥常緑林における渦相関法に基づく蒸発散量・CO₂交換量の季節・年々変動について. 水文・水資源学会/日本水文学会研究発表会要旨集(2023)、PP-2-2-30
66. 清水貴範、伊藤江利子、壁谷直記、飯田真一、田中憲蔵(国際農林水産業研究センター)、植山雅仁(大阪公立大学)、玉井幸治、大貫靖浩、清水晃. カンボジア国乾燥常緑林の樹冠上で測定したCO₂・H₂O収支とその植物季節との関係性. 日本農業気象学会全国大会講演要旨集(2024)、63(OB-1)
67. 飯田真一、大貫靖浩、荒木誠、鳥山淳平、清水貴範、玉井幸治、壁谷直記、清水晃、伊藤江利子、久保田多余子、山中勤(筑波大学)、田中憲蔵(国際農林水産業研究センター)、チャン ソファル(カンボジア森林野生生物研究所)、レヴィア デルフィス(アメリカデラウェア大学). カンボジア乾燥落葉林における乾季蒸散活動の利用水源に関する検討. 水文・水資源学会/日本水文学会研究発表会要旨集(2023)、PP-2-2-23
68. IIDA Shin'ichi(飯田真一)、SHIMIZU Takanori(清水貴範)、TAMAI Koji(玉井幸治)、KABEYA Naoki(壁谷直記)、SHIMIZU Akira(清水晃)、ARAKI Makoto(荒木誠)、OHNUKI Yasuhiro(大貫靖浩)、ITO Eriko(伊藤江利子)、TORIYAMA Jumpei(鳥山淳平)、TANAKA Kenzo(田中憲蔵・国際農林水産業研究センター)、KUBOTA Tayoko(久保田多余子)、YAMANAKA Tsutomu(山中勤・筑波大学)、Sophal Chann(カンボジア森林野生生物研究所)、Delphis F Levia(アメリカデラウェア大学). Contribution of understory vegetation to evapotranspirational processes in a tropical dry deciduous forest in Cambodia(カンボジア熱帯乾燥落葉林における下層植生が蒸発散過程に与える影響). American Geophysical Union Fall Meeting 2023、B13L-2065
69. 飯田真一、清水貴範、玉井幸治、壁谷直記、清水晃、伊藤江利子、大貫靖浩、Sophal Chann(カンボジア森林野生生物研究所)、Delphis Levia(アメリカデラウェア大学). エルニーニョ現象による異常乾燥が乾燥常緑林の水利用に与える影響. 日本森林学会大会学術講演集、135:273(PJ-54)
70. IIDA Shin'ichi(飯田真一)、SHIMIZU Takanori(清水貴範)、TAMAI Koji(玉井幸治)、KABEYA Naoki(壁谷直記)、SHIMIZU Akira(清水晃)、ITO Eriko(伊藤江利子)、OHNUKI Yasuhiro(大貫靖浩)、CHANN Sophal(カンボジア森林野生生物研究所)、Delphis F. Levia(アメリカデラウェア大学). Effect of groundwater depletion caused by extreme drought on transpiration activity in a dry evergreen forest(異常乾燥時の地下水低下が乾燥常緑林の蒸散活動に与える影響). Japan Geoscience Union Meeting 2023、AHW19-P01
71. 橋本徹、梅村光俊、今村直広、伊藤江利子、長倉淳子. トドマツ、エゾマツ、アカエゾマツ、ウダイカンバ人工林の樹高成長に対する長期連年施肥の影響. 北方森林学会大会研究発表プログラム、72:P-10
72. 伊藤江利子、橋本徹、相澤州平、長倉淳子. 連年施肥を受けたトドマツ・エゾマツ・アカエゾマツ壮齢林における堆積有機物の炭素窒素特性について. 北方森林学会大会研究発表プログラム、72:P-18

73. 伊藤江利子、橋本徹、相澤州平、長倉淳子. 連年施肥を受けたトドマツ・エゾマツ・アカエゾマツ壮齡林における堆積有機物の炭素窒素特性について. 北方森林研究、72:45-53
74. 橋本徹、梅村光俊、今村直広、伊藤江利子、長倉淳子. トドマツ、エゾマツ、アカエゾマツ、ウダイカンパ人工林の樹高成長に対する長期連年施肥の影響. 北方森林研究、72:29-32
75. 芝日菜子 (福井県立大学)、江上泰広 (愛知工業大学)、檀浦正子 (京都大学)、高梨聡、塩野克宏 (福井県立大学). オオムギの湿害発生過程における根系・根圏酸化状態デュアルイメージングの挑戦. 根研究集会プログラム、58:P-3
76. KIKUCHI Chihiro (菊池千尋・大阪府立大学)、UEYAMA Masahito (植山雅仁・大阪府立大学)、TAKANASHI Satoru (高梨聡). A monitoring system for evaluating the responses in CH₄ uptake to rising CH₄ concentrations in forest soils based on a closed chamber system (閉鎖チャンバーによる森林土壌のメタン濃度上昇に対するメタン吸収反応を評価するためのモニタリングシステム). Journal of Agricultural Meteorology、79 (3):95-103、DOI:10.2480/agrmet.D-23-00013
77. 南出一樹 (大阪公立大学)、植山雅仁 (大阪公立大学)、市井和仁 (千葉大学)、山本雄平 (千葉大学)、高梨聡、小杉緑子 (京都大学). 静止衛星データを用いた関西地方におけるエネルギーフラックスの時空間変動モデルの開発. 日本農業気象学会近畿支部大会講演論文集、14:16
78. 小泉駿介 (大阪府立大学)、植山雅仁 (大阪公立大学)、高梨聡. 斜面位置が与える森林土壌の CH₄ 吸収プロセスへの影響. 日本農業気象学会近畿支部大会講演論文集、14:4
79. 斉藤拓也 (国立環境研究所)、坂部綾香 (京都大学)、高梨聡、小杉緑子 (京都大学). 「真の渦集積法」によるフラックス測定システムの開発と森林サイトにおける検証. 大気化学討論会、28:O3-04
80. 檀浦正子 (京都大学)、能勢美峰、福田有樹、松下通也、三嶋賢太郎、南尊大 (京都大学)、田邊智子 (京都大学)、Epron, Daniel (京都大学)、香川聡、高梨聡、小南裕志. スギ2系統の地上部地下部における構造的・非構造的炭水化物の季節変動. 根研究集会プログラム、58:P-12
81. 檀浦正子 (京都大学)、能勢美峰、福田有樹、三嶋賢太郎、松下通也、南尊大 (京都大学)、田邊智子 (京都大学)、Epron, Daniel (京都大学)、小南裕志、高梨聡、香川聡. 13C パルスラベリングを用いたスギ2品種の炭素配分の季節変動. 日本森林学会大会学術講演集、135:238 (PG-33)
82. HIRATA Akiko (平田晶子)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、MIYAMA Takafumi (深山貴文)、TAKANASHI Satoru (高梨聡). Estimation of CO₂ emissions through decomposition of dead wood caused by pine wilt disease (マツ枯れによって発生したアカマツ枯死木の分解を通じた CO₂ 放出量の推定). AsiaFlux Conference 2023 Program Book、153
83. 平田晶子、小南裕志、深山貴文、高梨聡. 枯死年代・要因の違いがアカマツ枯死木の分解特性に与える影響. 日本生態学会大会講演要旨、71:P2-189
84. 高梨聡. 京都府南部広葉樹二次林における二酸化炭素交換特性および水利用効率. 日本生態学会大会講演要旨、71:P2-182
85. 芝日菜子 (福井県立大学)、江上泰広 (愛知工業大学)、檀浦正子 (京都大学)、高梨聡、塩野克宏 (福井県立大学). 作物の根圏酸素状態イメージングへの挑戦. 学際領域における分子イメージングフォーラム、19:P11

86. WADA Ryuichi (和田龍一・帝京科学大学)、MIYAMA Takafumi (深山貴文)、KOMINAMI Yuji (小南裕志)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、TANI Akira (谷晃・静岡県立大学)、YONEMURA Seiichirou (米村正一郎・県立広島大学)、UEYAMA Masahito (植山雅仁・大阪公立大学)、KATATA Genki (堅田元喜・Canon グローバル研究所)、TAKAGI Kentaro (高木健太郎・北海道大学)、MATSUMI Yutaka (松見豊・名古屋大学)、KAJINO Mizuo (梶野瑞王・気象研究所)、NAKANO Takashi (中野隆志・山梨県富士山科学研究所). Long-term observation of ozone flux in an evergreen coniferous forest in Japan (日本の常緑針葉樹林におけるオゾンフラックスの長期観測). Acid Rain 2020 Proceedings: 10th International conference on Acid Deposition, 10:230
87. KOMINAMI Yuji (小南裕志)、HIRATA Akiko (平田晶子)、KATSUSHIMA Takafumi (勝島隆史)、KITAMURA Kenzo (北村兼三)、MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、MIYAMA Takafumi (深山貴文)、MIZOGUCHI Yasuko (溝口康子)、MORISHITA Tomoaki (森下智陽)、SHIMIZU Takanori (清水貴範)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、YASUDA Yukio (安田幸生)、YOSHIFUJI Natsuko (吉藤奈津子)、HIRATA Ryuichi (平田竜一・国立環境研究所)、TAKAHASHI Yoshiyuki (高橋善幸・国立環境研究所)、ISHIDOYA Shigeyuki (石戸谷重之・産業技術総合研究所)、KAMEZAKI Kazuki (亀崎和輝・産業技術総合研究所)、MAEDA Takahisa (前田高尚・産業技術総合研究所)、MURAYAMA Shohei (村山昌平・産業技術総合研究所)、SAITOH M. Taku (齋藤拓・岐阜大学)、FUKASAWA Yu (深澤遊・東北大学)、TAKAGI Masahiro (高木正博・宮崎大学)、SUZUKI Satoshi (鈴木智之・東京大学)、TAKEMOTO Shuhei (竹本周平・東京大学). New scheme for estimation of spatio-temporal forest Carbon budget in Japan (日本の森林の炭素収支の時間変動を評価する新しい枠組み). Abstract of A3 Foresight Program 2023 International Workshop - Study on ecosystem GHGs exchange and its response to climate change in Northeast Asia, 21
88. KOMINAMI Yuji (小南裕志)、HIRATA Akiko (平田晶子)、IWASAKI kenta (岩崎健太)、KATSUSHIMA Takafumi (勝島隆史)、KITAMURA Kenzo (北村兼三)、MATSUI Tetsuya (松井哲哉)、MIYAMA Takafumi (深山貴文)、MIZOGUCHI Yasuko (溝口康子)、MORISHITA Tomoaki (森下智陽)、SHIMIZU Takanori (清水貴範)、TAKANASHI Satoru (高梨聡)、YASUDA Yukio (安田幸生)、YOSHIFUJI Natsuko (吉藤奈津子)、HIRATA Ryuichi (平田竜一・国立環境研究所)、TAKAHASHI Yoshiyuki (高橋善幸・国立環境研究所)、ISHIDOYA Shigeyuki (石戸谷重之・産業技術総合研究所)、KAMEZAKI Kazuki (亀崎和輝・産業技術総合研究所)、MAEDA Takahisa (前田高尚・産業技術総合研究所)、MURAYAMA Shohei (村山昌平・産業技術総合研究所)、SAITOH M. Taku (齋藤拓・岐阜大学). An approach to estimate forest NEP including ecosystem disturbances using long-term flux observations in Japan (長期フラックスデータを用いた森林攪乱を含む日本の森林のNEP評価). AsiaFlux Conference 2023 Program Book, 91
89. 小南裕志、深澤遊 (東北大学)、高木正博 (宮崎大学)、鈴木智之 (東京大学)、竹本周平 (東京大学)、高梨聡、平田晶子. コナラ枯死木の分解に伴う炭素動態. 日本生態学会大会講演要旨、71:P2-175
90. 岡野通明、小南裕志、深山貴文、吉藤奈津子、高梨聡、中井裕一郎、中野隆志 (山梨県富士山科学研究所)、鈴木純 (信州大学). 富士吉田森林気象試験地とその近郊において検出された最近の気候変動トレンド (3). 日本農業気象学会全国大会講演要旨集 (2024)、P-28
91. 奥村智憲 (大阪府立環境農林水産総合研究所)、小杉緑子 (京都大学)、高梨聡. 植物の揮発性有機化合物放出は温暖化によって増加するのか. 日本農業気象学会全国大会講演要旨集 (2024)、P-24
92. 小泉駿介 (大阪府立大学)、植山雅仁 (大阪公立大学)、高梨聡. 森林土壌における斜面位置の違いが CH_4 吸収に及ぼす影響. 日本農業気象学会全国大会講演要旨集 (2024)、A2-6
93. 大澤光、土井一生 (京都大学防災研究所)、荒井紀之 (京都大学防災研究所)、東良慶 (大阪工業大学)、渡壁卓磨、山川陽祐 (筑波大学). 線状凹地を有する地すべり地における地盤構造の推定. 日本地球惑星科学連合大会 (2023)、HDS10-02

94. 渡壁卓磨、古市剛久（森林総研 PD）、大澤光、岡本透、岡本隆. ベトナム北西部の山地斜面における土地利用と土砂流出の関係. 日本地すべり学会研究発表会講演集、62:18 (1-11)
95. 渡壁卓磨、馬場俊明（国土防災技術（株））、松四雄騎（京都大学）. 土層の生成から流出過程にもとづいた山地源流域の斜面地形発達. 日本地形学連合発表要旨集、4 (1):34
96. 渡壁卓磨. 山に降る雨と流れ出る土砂の関係. 森林総合研究所関西支所研究情報、149:2-3
97. 岡本隆、古市剛久（森林総研 PD）、大澤光、渡壁卓磨、村上亘、鈴木秀典、山口智、宗岡寛子. ベトナムにおける治山施設の潜在的ニーズと普及に向けた課題. 日本森林学会大会学術講演集、135:267 (PJ-31)
98. FURUICHI Takahisa（古市剛久）、WATAKABE Takuma（渡壁卓磨）、OSAWA Hikaru（大澤光）、MURAKAMI Wataru（村上亘）、OKAMOTO Takashi（岡本隆）、SHIMIZU Katsuto（志水克人）、Vu Tan Phuong（Vietnamese Academy of Forest Sciences: VAFS）、Nguyen Thuy My Linh（VAFS）、Thanh Tung Doan（VAFS）、Le Th Thu Hang（VAFS）. Land-use change, landform transformation and their geomorphic impacts in mountain catchments in northern Vietnam（北部ベトナムの山地流域における土地利用と人工地形変化、それらの地形学的インパクト）. Japan Geoscience Union Meeting 2023、HGG01-P03
99. SCHAEFER Holger（シェーファ・ホルガクリスチアン）. 菌根菌糸の炭素動態を解明するための手法開発. 森林総合研究所関西支所研究情報、148:2-3
100. SCHAEFER Holger（シェーファ・ホルガクリスチアン）. Development of a low-cost high-resolution imaging device for the observation of hyphae in field soils（フィールド土壌中の菌糸を観察するための低コスト・高解像度撮影装置の開発）. British Ecological Society Annual Meeting 2023、A 15.6
101. SCHAEFER Holger（シェーファ・ホルガクリスチアン）. 森林土壌中の菌糸ターンオーバー：土壌断面撮影とAI画像分析で追いつけるか. 日本森林学会大会学術講演集、135:293 (PM-21)
102. YOSHIMURA Mayumi（吉村真由美）. Hypothesised life cycle adaptation of stonefly（Plecoptera）in response to increased water temperatures（水温上昇に伴うカワゲラの生活史適応に関する仮説）. Journal of Thermal Biology（2023）、113:103533
103. 吉村真由美. 第1項放射線と生物の基礎、第2項第6章 福島第一原子力発電所で何が起こったか、第2項第8章 福島第一原発事故による汚染が水生生物類に与えた影響、第2項第10章 放射線の人への影響について、第2項第11章 様々な被ばく、第3項第15章 放射線防護の考え方. 環境 Eco 選書 16、放射線と生き物（北隆館、320頁）、7-72、74-83、117-151、181-194、195-207、285-305
104. 吉村真由美. 大台ヶ原における溪流性底生動物群集の変化. 日本昆虫学会大会プログラム・講演要旨集、83:47 (B206)
105. 吉村真由美. 溪流に生息する生き物 その1 生息環境－層流と乱流・粘性と慣性. 森林総合研究所関西支所研究情報、148:4
106. 吉村真由美. 溪流に生息する生き物 その2 光と生態. 森林総合研究所関西支所研究情報、149:4
107. 吉村真由美. 溪流に生息する生き物 その3 流されて移動する生態（ドリフト）. 森林総合研究所関西支所研究情報、150:4
108. HIGASHIKAWA Wataru（東川航）、YOSHIMURA Mayumi（吉村真由美）、Atsushi J. NAGANO（永野惇・龍谷大学・慶応大学）、MAETO Kaoru（前藤薫・神戸大学）. Conservation genomics of an endangered floodplain dragonfly, *Sympetrum pedemontanum elatum* (Selys), in Japan（絶滅危惧種ミヤマアカネの保全に向けたゲノムワイド遺伝解析）. Conservation Genetics、<https://doi.org/10.1007/s10592-023-01595-2>

109. 東川航、吉村真由美、前藤薫（神戸大学）. 里山の赤トンボはなぜ減少しているのか？－水田の環境変化から考える－. 日本昆虫学会大会プログラム・講演要旨集、83:29（S101）
110. 吉村真由美、久保田多余子. 溪流の光環境と水生生物群集－物質代謝の視点から－. 日本昆虫学会第84回大会・第68回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨集、122（PG01-48）
111. 吉村真由美. 溪流に生息する生き物 その4 落葉と生き物. 森林総合研究所関西支所研究情報、151:4
112. 吉村真由美. 公開シンポジウム「分野を超え海を越える昆虫科学」第27回国際昆虫学会議（ICE2024 Kyoto）の紹介 講演2：ICE2024 一般向けイベントの紹介. 日本昆虫学会第84回大会・第68回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨集、15（S-08）
113. SEKI Shin-Ichi（関伸一）. Genetic structure of the Japanese Robin *Larvivora akahige* endemic to East Asian islands.（東アジアの島嶼に固有なコマドリの遺伝的構造）. *Ibis*, 165（3）:875-889
114. SEKI Shin-Ichi（関伸一）. Fine-scale nuclear genetic structuring within the Ryukyu Robin, a species complex endemic to the Ryukyu Archipelago.（琉球列島周辺地域に固有のアカヒゲ種群における細分化された遺伝的集団構造）. *Ornithological Science*, 22（2）:137-150
115. 関伸一. 巣箱カメラの今どき事情. 日本鳥学会大会講演要旨集（2023）、114（P069）
116. 関伸一. 沖縄島の亜熱帯照葉樹林におけるヤマガラ繁殖生態. *Bird Research*, 19:A51-A61
117. 関伸一. 離島の外来リス根絶と鳥類の繁殖環境の回復への道. バードリサーチ鳥類学大会講演要旨集（2023）、21（P-30）
118. 関伸一. ホントウアカヒゲと鳥類目録百年の呪縛. *Birder*, 38（2）:70-72
119. KANZAKI Natsumi（神崎菜摘）、IKEDA Yuya（池田雄哉・明治大）、SHINYA Ryoji（新屋良治・明治大）. *Onthodiplogaster japonica* n. gen., n. sp. (Rhabditida: Diplogastridae) isolated from *Onthophagus* sp. (Coleoptera: Scarabaeidae) from Japan（日本国内のエンマコガネから検出された新属新種線虫、*Onthodiplogaster japonica*）. *Scientific Reports*, 13:6470, DOI: 10.1038/s41598-023-33586-1
120. KANZAKI Natsumi（神崎菜摘）、MAKINO Shun'ichi（牧野俊一・森林総研非常勤職員）、KOSAKA Hajime（小坂肇）、SAYAMA Katsuhiko（佐山勝彦）、HAMAGUCHI Keiko（濱口京子）、NARAYAMA Shinji（梶山真司）. Nematode and strepsipteran parasitism in bait-trapped and hand-collected hornets (Hymenoptera, Vespidae, *Vespa*)（トラップ、および手捕り採集されたスズメバチ類の線虫、ネジレバネ寄生）. *Insects*, 14（4）:398, DOI: 10.3390/insects14040398
121. KANZAKI Natsumi（神崎菜摘）、Gulsar Banu（ICAR-Central Institute for Cotton Research, Coimbatore・インド）、Kakkanattu Meerasahib Anes（ICAR-Central Plantation Crops Research Institute・インド）. Nematode problems in palms and their sustainable management（ヤシ類の線虫被害と、その持続可能な管理）. *Nematode Diseases of Crops and Their Sustainable Management*.（746頁）、427-455, In Khan, M.R. & Quintanilla, M. (eds.) *Nematode disease of crops and their sustainable management*. Elsevier/Academic Press. DOI: 10.1016/B978-0-323-91226-6.00017-1
122. Justin Van Goor（メリーランド大学）、KANZAKI Natsumi（神崎菜摘）、Gavin Woodruff（オクラホマ大学）. How to be a fig nematode.（いかにして、イチジク関連線虫が成立したか）. *Acta Oecologica*, 119:103916, DOI: 10.1016/j.actao.2023.103916

123. Robin M. Giblin-Davis (フロリダ大学)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、Donna S. Williams (フロリダ大学). Ultrastructural study of anther parasitism of *Ficus laevigata* by *Ficophagus laevigatus* (Aphelenchoididae) (*Ficophagus laevigatus* 感染による *Ficus laevigata* 葯組織病変の微細構造研究). *Journal of Nematology*, 55 (ページ番号設定なし・DOIのみ)、DOI: 10.2478/jofnem-2023-0010
124. KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、TANAKA Ryusei (田中龍聖・宮崎大(医))、Robin M. Giblin-Davis (フロリダ大学). *Schistonchus pumilae* n. sp. isolated from syconia of a creeper fig, *Ficus pumila* L. from the Japanese warm temperate zone (暖温帯の蔓性イチジク、オオイタビから検出された新種線虫 *Schistonchus pumilae*). *Nematology*, 25 (5):509-529、DOI: 10.1163/15685411-bja10236
125. KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、KOSAKA Hajime (小坂肇)、FUJIMORI Yuta (藤森友太・明治大(農))、AKIBA Mitsuteru (秋庭満輝). On the phylogenetic status of *Contortylenchus genitalicola* Kosaka & Ogura, 1993 (*Contortylenchus genitalicola* Kosaka & Ogura, 1993 の系統的位置づけに関して). *Nematology*, 25 (5):543-548、DOI: 10.1163/15685411-bja10233
126. YAMASHITA Tatsuya (山下達矢・明治大)、EKINO Taisuke (浴野泰甫・明治大)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、SHINYA Ryoji (新屋良治・明治大). The developmental and structural uniqueness of the embryo of the extremophile viviparous nematode, *Tokorhabditis tufae* (極限環境に生息する胎生線虫、*Tokorhabditis tufae* 胚の発生学的、構造学的特殊性). *Frontiers in Physiology*, 14:1197477、DOI:10.3389/fphys.2023.1197477
127. 神崎菜摘、藤森友太(明治大・農)、濱口京子. タイワンタケクマバチの青竹への穿孔. 森林総合研究所研究報告、22 (2):73-75
128. YAMAZAKI Izumi (山崎いずみ・筑波大)、ONUMA Moe (小沼萌・筑波大)、OMIYA Haruka (大宮悠・筑波大)、RI Tomohiko (李智彦・筑波大)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、DEGAWA Yousuke (出川洋介・筑波大)、SAWAMURA Kyoichi (澤村京一・筑波大). First record of *Stigmatomyces* (Ascomycota: Laboulbeniales) on Drosophilidae from Japan (日本国内のショウジョウバエ類からの *Stigmatomyces* 属糸状菌の初報告). *Fly*, 17:2234265、DOI:10.1080/19336934.2023.2234265
129. KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、MASUYA Hayato (升屋勇人). *Bursaphelenchus ogawanus* n. sp. isolated from bark material of *Fagus japonica* Maxim. from Japan (日本国内のイヌブナ樹皮試料から分離された新種線虫、*Bursaphelenchus ogawanus*). *Nematology*, 25 (7):729-747、DOI: 10.1163/15685411-bja10252
130. YAMAZAKI Izumi (山崎いずみ・筑波大学)、ONUMA Moe (小沼萌・筑波大学)、RI Tomohiko (李知彦・筑波大学／筑波大学山岳科学センター)、OKANE Izumi (岡根泉・筑波大学)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、DEGAWA Yousuke (出川洋介・筑波大学／筑波大学山岳科学センター)、SAWAMURA Kyoichi (澤村京一・筑波大学). Laboratory experiment of *Stigmatomyces majewskii* (Laboulbeniales: Laboulbeniaceae) infection on *Drosophila suzukii* (Diptera: Drosophilidae) (オウトウショウジョウバエへの *Stigmatomyces majewskii* 感染に関する室内試験). *Applied Entomology and Zoology*, 58 (4):379-385、DOI: 10.1007/s13355-023-00843-8
131. KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、DEGAWA Yousuke (出川洋介・筑波大学山岳科学センター). *Sachsia putridicola* n. sp. (Rhabditida: Diplogastridae), isolated from an *Onthophagus dung* beetle (Coleoptera: Scarabaeidae) from Tsukuba, Japan (つくば市で採集したエンマコガネより分離された新種、*Sachsia putridicola*). *Nematology*, 25 (10):1141-1156、DOI: 10.1163/15685411-bja10282
132. 神崎菜摘、藤森友太(明治大学)、浴野泰甫(明治大学)、出川洋介(筑波大学山岳科学センター). 長野県菅平高原のハナバチ類より分離された *Pristionchus* 属未記載種. 日本線虫学会大会講演要旨集、30:28 (発表番号 P23)

133. 藤森友太 (明治大学)、新屋良治 (明治大学)、神崎菜摘. Tylenchina 重目昆虫寄生性線虫の繁殖様式スイッチング. 日本線虫学会大会講演要旨集、30:7 (発表番号 O2/P29)
134. 山下達矢 (明治大学)、神崎菜摘、新屋良治 (明治大学). 線虫における胎生は繰り返し出現する. 日本線虫学会大会講演要旨集、30:9 (発表番号 O5/P31)
135. 吉富恭果 (明治大学)、神崎菜摘、新屋良治 (明治大学). 樹液内環境に生息する線虫 *Bursaphelenchus tadamiensis* の環境耐性. 日本線虫学会大会講演要旨集、30:17 (発表番号 P1)
136. KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、FIJIMORI Yuta (藤森友太・明治大学)、EKINO Taisuke (浴野泰甫・明治大学)、DEGAWA Yousuke (出川洋介・筑波大学山岳科学センター). *Pristionchus* sp. isolated from soil-dwelling bee from Nagano, Japan (日本、長野県の土壌性ハナバチから分離された *Pristionchus* sp.). International Pristionchus meeting、4:13
137. 小坂肇、佐山勝彦、神崎菜摘、牧野俊一 (森林総研非常勤職員). 寄生生物観察のためのスズメバチ越冬女王の飼育. 日本森林学会大会学術講演集、135:162 (L14)
138. 小坂肇、佐山勝彦、神崎菜摘、牧野俊一 (森林総研非常勤職員). スズメバチ女王から新たに発見された寄生バチの生態と分類. 日本昆虫学会第84回大会・第68回日本応用動物昆虫学会大会合同大会講演要旨集、83 (C-39)
139. 八代田千鶴. 2-1-2 シカ. 野生鳥獣被害防止マニュアル【総合対策編】、8-9
140. 八代田千鶴. 3-3-1 (3) 銃を用いた捕獲. 野生鳥獣被害防止マニュアル【総合対策編】、44
141. 八代田千鶴. 3-3-2 シカにおける密度管理の考え方. 野生鳥獣被害防止マニュアル【総合対策編】、44
142. 八代田千鶴、荒木良太 (自然環境研究センター)、小坂井千夏 (農業・食品産業技術総合研究機構). 錯誤捕獲の情報収集体制をどのように構築するか?. 日本哺乳類学会大会プログラム・講演要旨集 (2023)、54 (F13)
143. 八代田千鶴. 「野生生物と社会」学会の目指す新たな関係. 日本生態学会第27回公開講演会・人と自然の古くて新しい関係
144. 八代田千鶴. 多様性の時代に. ワイルドライフ・フォーラム、28 (1): 巻頭
145. 八代田千鶴. 森林におけるニホンジカの管理. 山林、1672:19-26
146. 石橋弥生 (静岡県立大学)、大橋正孝 (静岡県森林・林業研究センター)、八代田千鶴、小木ひかる (静岡県立大学)、大槻尚子 (静岡県立大学)、市川陽子 (静岡県立大学). 静岡県内に生息するニホンジカ肉の食資源化－胃内容物とシカの食肉特性の関連についての検討－. 日本畜産学会大会講演要旨集、131:188
147. 陶山大志 (鳥根県中山間地域研究センター)、市原優. スギ当年生コンテナ苗で発生した灰色かび病. 日本森林学会誌、105 (4):118-122
148. EKINO Taisuke (浴野泰甫・明治大学)、YOSHIGA Toyoshi (吉賀豊司・佐賀大学)、TAKEUCHI-KANEKO Yuko (竹内 (金子) 祐子・京都大学)、ICHIHARA Yu (市原優)、KANZAKI Natsumi (神崎菜摘)、SHINYA Ryoji (新屋良治・明治大学). Highlighting potential physical and chemical cues involved in conspecific recognition system in a predator nematode, *Seinura caverna* (捕食線虫 *Seinura caverna* における物理、化学的シグナルによる同種認識). Integrative & Comparative Biology、63 (4):865-876、DOI: 10.1093/icb/icad1051
149. 服部友香子、升屋勇人、市原優、春間俊克、鳥居正人. サクラ属樹木4種に対する *Cytospora japonica* の病原性. 日本森林学会大会学術講演集、135:293 (PM-23)

150. 安藤裕萌、陶山大志（島根県中山間地域研究センター）、市原優. スギコンテナ苗育成現場で発生した黒点枝枯病菌による胴・枝枯性被害. 樹木医学会大会講演要旨集、28:P-09
151. 安藤裕萌、陶山大志（島根県中山間地域研究センター）、市原優、升屋勇人. スギコンテナ苗の根腐れ部から分離された *Fusarium* 属菌. 日本森林学会大会学術講演集、135:294（PM-27）
152. 市原優、安藤裕萌、升屋勇人. 中国地方の低標高地におけるカラマツ植栽試験で発生した苗立枯に関与する菌類. 樹木医学会大会講演要旨集、28:37（A-4）
153. 市原優、山路恵子（筑波大学）、福山賢仁（日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター）、綱嶋康倫（日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター）、重金属水処理したヒバ材表面における重金属分布とヒノキチオール錯体形成. 日本森林学会大会学術講演集、135:297（PN-5）
154. 松永孝治、岩泉正和、市原優. 熊本県合志市において秋から冬にかけて観察されるスギ雄花枯れ現象. 九州森林研究、77:177-180
155. 濱口京子、檜山真司、神崎菜摘、秋野順治（京都工業繊維大学）、佐藤隆士（京都市）、クロナガアリの結婚飛行について. 日本蟻類研究会大会講演要旨集、64:11
156. Emil Eichelbrönnner（レーゲンスブルク大）、Laura Neubauer（レーゲンスブルク大）、HAMAGUCHI Keiko（濱口京子）、KINOMURA Kyoichi（木野村恭一・岐阜市）、Marion Cordonnier（レーゲンスブルク大）、Jürgen Heinze（レーゲンスブルク大）、Genetic structure and mating system of the ant *Temnothorax makora*（ハヤシムネボソアリの遺伝的構造と交配システム）. Central European Section Meeting of IUSSI（国際社会性昆虫学会中央ヨーロッパ支部会）、7:18
157. 濱口京子、長谷川元洋（同志社大学）、松田陽介（三重大学）、平野恭弘（名古屋大学）、谷川東子（名古屋大学）、トビムシ個体からの腸内微生物叢解析の試み. 日本森林学会大会学術講演集、135:287（PL-28）
158. 福田秀志（日本福祉大学）、濱口京子. 知多半島のウバメガシ林に生息するカシノナガキクイムシ～太平洋型は生育しているか？～. 樹木医学会大会講演要旨集、28:43（A-10）
159. KOBAYASHI Chisato（小林知里・東北大学）、MUKAI Hiromi（向井裕美）、TAKANASHI Takuma（高梨琢磨）. Vibrations and mushrooms: Do environmental vibrations promote fungal growth and fruit body formation?（振動とキノコ：環境中の振動が菌類の成長および子実体形成を促進する？）. Ecology、104（6）:e4048
160. 高梨琢磨、小林知里（東北大学）、向井裕美. きのこに振動を与えて害虫の発生を抑制する. 森林総合研究所研究成果選集 2023（令和5年版）、26-27
161. TAKANASHI Takuma（高梨琢磨）、KOBAYASHI Chisato（小林知里・東北大学）、MUKAI Hiromi（向井裕美）. Vibrations promote fungal growth and fruit body formation in shiitake mushroom（振動はシイタケの菌糸成長および子実体形成を促進する）. Annual Meeting of the Society for Bioacoustics、10:12
162. 高梨琢磨、小林知里（東北大学）、向井裕美. 振動を用いたシイタケの害虫防除および生育促進. 東北森林科学会大会講演要旨集、28: テーマ別セッション 5
163. 高梨琢磨、小林知里（東北大学）、向井裕美. 振動はシイタケの菌糸成長と子実体発生を促進する. 日本きのこ学会大会講演要旨集、26:50
164. 高梨琢磨、向井裕美、関根崇行（宮城県農業・園芸総合研究所）、立田晴記（九州大学）、小池卓二（電気通信大学）. 害虫防除と安定栽培のための振動技術の開発ートマトとシイタケにおける実用化を目指してー. 農業食料工学会誌、85（5）:266-268

165. 西園朋広、細田和男、齋藤英樹、高橋正義、北原文章、山田祐亮、鄭峻介、志水克人、石橋聡、古家直行、辰巳晋一、小谷英司、松浦俊也、齋藤和彦、田中邦宏、田中真哉、福本桂子、近藤洋史、高橋與明、佐野真琴（農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター）、鷹尾元. 平成28～令和2年度に調査した収獲試験地等固定試験地の経年成長データ（収獲試験報告 第27号）. 森林総合研究所研究報告、22（3）:141-190
166. 齋藤和彦. 近代沖縄の旧慣林制改革は杣山の地元に穏当な官地民木林整理だった. 沖縄文化協会公開研究発表会（2023）、3
167. 齋藤和彦. 大里康永（1970）謝花昇伝の森林関連の記述の検証. 亜熱帯森林・林業研究会発表要旨集（令和5年度）、7
168. 齋藤和彦、田中邦宏、田中真哉、平野悠一郎、家原敏郎. 基盤研究2-A k1：収獲試験地における森林成長データの収集. 森林総合研究所関西支所年報（令和5年版）、64:50
169. 志賀和人（林業経済研究所）、山本伸幸（筆頭者同等）、早船真智（筆頭者同等）、平野悠一郎（筆頭者同等）. 地域森林管理の長期持続性－欧州・日本の100年から読み解く未来－. 地域森林管理の長期持続性－欧州・日本の100年から読み解く未来－（志賀和人・山本伸幸・早船真智・平野悠一郎 編著）（日本林業調査会、340頁）
170. 平野悠一郎. 16-4 地域資源管理とアクターの多様化. 環境社会学事典（丸善出版、742頁）、412-413
171. 平野悠一郎. 価値研究からみた森林の訪問・体感利用. 林業経済、76（8）:1-22
172. 平野悠一郎. 書評：中島弘二編著『帝国日本と森林：近代東アジアにおける環境保護と資源開発』. 林業経済、76（7）:15-28
173. 平野悠一郎. 新たな森林利用の潮流とその可能性・課題：スポーツ・レジャー活動を中心に. 九州森林フォーラム in 熊本県山江村、28: 基調講演①
174. 平野悠一郎. 「中華人民共和国森林法」の改正からみた中国の森林政策の動向. 林業経済学会秋季大会発表要旨集（2023）、C10
175. 平野悠一郎、天野智将、都築伸行. 森林路網における野外スポーツ利用の特徴と課題. 林業経済研究、70（1）:34-50
176. 平野悠一郎. 近代東アジアへの林学普及におけるアメリカの影響と特徴. 日本森林学会大会学術講演集、135:123（A30）
177. 小田龍聖、高山範理、八巻一成、木俣知大（（一社）東京学芸大学 Explayground 推進機構）、平野悠一郎. 「森林サービス産業」：エビデンス収集から社会実装への転換期に森林科学はどのように貢献できるのか？. 森林技術、976:24-29
178. 田中邦宏、齋藤和彦. アカマツースギーヒノキ複層林の成長と構造の推移. 応用森林学会大会研究発表要旨集、74:38
179. 田中邦宏. スギー斉人工林における樹冠競争を加味した局所密度と単木の成長. 日本森林学会大会学術講演集、135:200（PD-44）
180. 田中真哉、小幡進午、北原文章、西園朋広. 時系列 Landsat データを用いた森林タイプ分類の試行. 日本森林学会大会学術講演集、135:206（PD-68）
181. 高橋與明、田中真哉、高橋正義、齋藤英樹、西園朋広、福本桂子、鈴木秀典、鷹尾元. 航空機 LiDAR データによる人工林の管理状況の把握. 日本森林学会大会学術講演集、135:204（PD-60）